

東北学院震災復興対策委員会（第8回）次第

日時：平成23年5月25日（水）15：00～

場所：土樋キャンパス1号館6階会議室

委員：平河内理事長（委員長）・星宮学院長（副委員長）宮城総務担当常任理事

関谷財務担当常任理事・柴田人事担当常任理事・高橋法人事務局長・斎藤学務担当副学長

高木法学部長・永井中学校・高等学校長・久能榴ヶ岡高等学校長・日野総務部長・高橋財

務部長・佐々木施設部長・佐藤庶務部長・斎藤庶務課長・若生人事課長・駒板財務課長

陪席：那須監事

黙祷 委員長 平河内 健治

協議事項

- 1、前回議事録確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～2P
- 2、F & M大学からの奨学金（被災学生以外の参加学生への補助）・・・・・・・3～5P
- 3、東日本大震災に伴う東北学院生活資金貸付規程 訂正案・・・・・・・・・・・・・6～7P
- 4、東北学院中学校・高等学校東日本大震災による被災生徒に
対する救済措置に関する規程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8～15P
- 5、東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災による被災生徒に
対する救済措置に関する規程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16～18P

第7回 東北学院震災復興対策委員会議事録

日時：平成23年5月18日（水） 15:05～17:00

場所：1号館6階会議室

出席委員：平河内健治 星宮 望 宮城光信 関谷 登 柴田良孝 齋藤 誠 高木龍一郎
永井英司 湯本良次 高橋清昭、佐藤範明 高橋秀悦 日野 哲 佐々木文彦
齋藤英夫 若生克義 駒板高明 以上17名

陪 席：那須和良（監事）

協議事項

1. 前回第6回議事録確認 委員会終了時まで確認いただき、承認された。
2. 東北学院大学東日本大震災緊急給付奨学金規程（案 ver3）
説明：齋藤学務担当副学長 資料に基づき説明があり、原案のとおり承認された。
3. 補正予算（復興関連教育研究部門からの発信機能の強化）の件
説明：高橋財務部長 資料に基づき説明、既に部長会等で説明済だが、再度予算編成方針のなかに加え周知することが承認された。
4. 東北学院復興支援金における寄付者一覧
説明：高橋財務部長 資料に基づき説明、お礼状にて、ホームページに寄付者として掲載する旨の確認をとることも承認された。
5. 各研究室の安全確認および改修作業
説明：佐々木施設部長 報告了承（既に部長会等で報告済）
6. 「土樋キャンパス内東日本大震災復旧対策工事に伴う制限・規制について」
説明：佐々木施設部長 報告了承（既に部長会等で報告済）
7. 3キャンパス5月9日以降の各館の震災復旧状況一覧
説明：佐々木施設部長 報告了承（既に部長会等で報告済）なお、土樋キャンパス礼拝堂の工事完了見込が9月19日と記載されているが、講演会等の関係から完了時期を早くできないか業者と相談中であるとの追加報告があった。
8. 東北学院大学放射線モニタリング
説明：柴田総務担当副学長及び星宮大学長 測定器が1台であることから多賀城キャンパスは毎日、他の大学キャンパスと中学校・高等学校は週に測定している。今後測定結果をホームページに掲載することが承認された。
9. 授業開始にあたってのについて
説明：日野総務部長 別紙資料に基づき、5月7日現在の大学施設安全確認に関する報告がありました承された。
10. 東日本大震災による死亡・行方不明学生について
説明：日野総務部長 別紙資料に基づき報告了承された。なお資料は新1年生も含まれている。
11. 北海学園大学よりの見舞金について
説明：日野総務部長 別紙資料に基づき報告了承された。なお、見舞金等の受け入れについて、今後は、全て一度学校会計をとおり、その後関係機関へ振り分けることとすることが確認された。

12. 被災見舞いへの御礼状（案）

説明：斎藤庶務課長 別紙資料に基づき報告了承された。見舞金等のお金を頂戴した場合は既に、財務課より理事長、学院長連名のお礼状を送付しているが、物品、お手紙等をいただいた方々へのお礼状として活用することとなり、理事長、学院長の名前に大学長、校長等のお名前を加えて利用することも可能との説明があった。なお、既に理事長及び学院長の了解のもと、順次お礼状を送付している。後日、送付済一覧を提出する。

13. 所得税法施行令及び法人税法施行令に掲げる特定公益増進法人の証明に係る届出

説明：高橋財務部長 別紙資料に基づき報告了承された。

14. 石巻からの通学バス運行について

説明：日野総務部長及び永井中学校・高等学校長 大学について、別紙資料に基づき説明があり、5月末を持ってバスの運行を打ち切ることが承認された。なお、中学校・高等学校については6月以降も1台運行継続を検討していることが報告された。

15. 「災害復興対策関係業務」に関わる予算処理について

説明：日野総務部長 別紙資料に基づき説明があり、①卒業生への学位記等の郵送料 ②在学生への「大学開始に関するお知らせ」郵送料 の予算措置について承認された。

16. 多賀城キャンパス環境建設工学科の「建築設計製図Ⅰ」及び「建築設計製図Ⅱ」の実習スペース整備費凍結解除について

説明：高橋財務部長 資料に基づき説明があり、当初予算の凍結を解除する事が承認された。

17. 賄人住宅（旭ヶ岡寄宿舍）取壊し及び撤去についての予算措置

説明：佐々木施設部長 資料に基づき説明があり、施設課における減額修正後の予算範囲内で行うことが承認された。

18. 多賀城キャンパス6号館空調設備

説明：佐々木施設部長 資料に基づき説明があり、省エネに適したものであることを条件に5社にプロポーザルをお願いすることが承認された。

19. 学費と授業について（保護者からのメールでの質問）

説明：高橋財務部長 5月12日、別紙のとおり回答したことの報告がありました承された。

20. 土樋キャンパスパーキングゲート更新（南門ゲート）

説明：佐々木施設部長 土樋キャンパスの北門5のパーキングゲートに続き、南門2のパーキングゲートが車を感知しない等の不具合が発生しているとの説明があり、南門2のパーキングゲートについても取替更新の予算措置を認めることが承認された。

21. 泉キャンパスレンタル仮設トイレについて

説明：佐々木施設部長 資料に基づき説明があり、予算措置について認めることが承認された。

以 上

震災復興対策委員会御中

先日、お認め頂きましたフランクリン&マーシャル大学（以下、F&M 大学）からの \$15,000 の奨学金の件について、以下のようなメールのやり取りとなりました。そこで、F&M 大学の意向によって、被災学生への奨学金 \$7,000 を差し引いた \$8,000 については、参加を予定している他の学生 7 名の費用補助として扱うことをお認めいただけますようにとごお願いいたします。

平成 23 年 5 月 19 日

国際交流部長 佐々木郁子

5 月 16 日付 TG→F&M

- F&M 大学へ、被災学生 3 名のうち 1 名のみが参加のため、\$15,000 のうち \$7,000 を振り込んでほしいと依頼。
- 残りの \$8,000 については、もし可能であれば、今年のプログラム費に充ててほしいということも加えた。

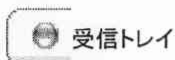
理由：参加学生もなんらかの被災はしていることと、少人数のため渡航費が例年より高くつくため。（国際交流委員会でもこの点は論点になった。）

また、毎年、プログラム費用が高く、インバランスも大きくなっているため、プログラム費用のディスカウントの交渉材料として話をした。

5 月 19 日付 F&M→TG

- F&M 大学副学長 Ann Steiner より、\$15,000 全額を振り込むが、\$7,000 は被災学生に、残り \$8,000 は他の参加学生の渡航費に充ててほしいとのこと。
- F&M 大学でのプログラム費用は、今年は全学 F&M 大学が負担し無料とするとのこと。

※参考：メール原文



送信者 Ann Steiner [REDACTED]
 受信者 IKUKO SASAKI [REDACTED]
 受信日 2011/05/19 11:41:48 送信日 2011/05/19 11:41:37
 件名 Re: Summer program at F&M

Dear Dean Sasaki,

We will deposit \$15,000 into the account specified below. Please use \$7,000 to cover the scholarship for the additional student and the remaining \$ 8,000 to help defray the costs of the trip over all for everyone participating.* We will pay for all the expenses for the portion of the trip at F&M, so there will be no bill at all* from F&M this year. I will let you know when the transfer is complete.

If I understand correctly now, there will be two directors and 8 students. Is that correct?

Many thanks,

Ann Steiner

On May 16, 2011, at 5:39 AM, IKUKO SASAKI wrote:

Dear Provost Steiner,

I am sorry for my delay in replying to your email.

First semester began from last week. Most students came back to campuses.

International Affairs had a meeting about your offering \$15,000.

One of three students who canceled wants to join in the summer program in USA if she could get a grant. In terms of the students background, she is a sophomore and the family business is farming. Her firmland damaged by Tsunami and her parents cannot prospect to get income this year.

Therefore, we would like to ask you to send \$7,000 which can be covered all costs for the summer program.

I am informing you our bank account as follows.

We ask that you please deposit \$7,000 into this account. After the deposit has been confirmed, we are going to give the grant to the student.

Our university bank account is as follows.

Bank Name: THE 77 BANK, LTD.

(SWIFT ADDRESS: BOSSJPJT)

Branch Name: HEAD OFFICE

Branch Address: 3-3-20 CHUO, AOBA-KU, SENDAI, MIYAGI, JAPAN

Beneficiary's A/C Number: 100-5825539

Beneficiary's Name: TOHOKU GAKUIN

Beneficiary's Address: 1-3-1 TSUCHITOI AOBA-KU SENDAI MIYAGI JAPAN

And could you allocate the remains(\$15,000-7,000=\$8,000) to the F&M summer program fee of this year?

I would like to ease financial burden of participants, because not only the student who are going to receive the grant, but also all participants were affected by this big disaster. And I think that travel expenses in this year will be needed more than in last year because only 8 students are going to participate in the summer program in this summer, that is, students cannot get a discount price for group.

We hope that you will understand our situation.

Best regards,

IKUKO SASAKI

----- Original Message -----

From: Ann Steiner [REDACTED]

To: IKUKO SASAKI [REDACTED]

Date: 2011-05-02 10:16:03

Subject: Re: Summer program at F&M

Dear Dean Sasaki,

Thank you for writing. I am glad the support will be useful, and I will look for information about how best to get these funds to you.

All the best,

Ann Steiner

On Apr 28, 2011, at 10:41 PM, IKUKO SASAKI wrote:

Dear Provost Steiner,

I am deeply grateful for your contribution.

We decided the \$15,000 to give to the scheduled participants who are in financial difficulty. Now, Three students told us that their financial situation are difficult to participate in summer program. We asked the students whether they want to join the summer program if they could get financial supporting. Unfortunately, One student decided not to join this program because she were siverely damaged by Tsunami and don't want to leave her family. However, other students still want to join if they get financial supports.

Therefore, we accept your contribution with gratitude. And We will decide how the money transfer as soon as possible, though I think we use university bank account.

Again, may I tender my cordial thanks for your supports.

Sincerely,

東日本大震災に伴う東北学院生活資金貸付規程 訂正案

新	旧																								
<p>第5条 貸付金の返済方法は次の各号による。</p> <p>(1) 返済は貸付を受けた月の13か月後からとする。</p> <p>(2) 貸付金の返済は貸付金額及び貸付期間に応じ毎月の給与から又は毎月の給与及び6月期・12月期期末手当からの併用のいずれかによる。ただし、6月期・12月期期末手当による返済の総額は貸付額の2分の1以内とし、<u>1万円</u>単位とする。</p> <p>(3) 返済期間は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>貸付金額</th><th>返済期間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100万円まで</td><td>3年以内</td></tr> <tr> <td>200万円まで</td><td>6年以内</td></tr> <tr> <td>300万円まで</td><td>9年以内</td></tr> <tr> <td>400万円まで</td><td>12年以内</td></tr> <tr> <td>500万円まで</td><td>15年以内</td></tr> </tbody> </table> <p>2 貸付金の返済が終了しないうちに貸付を受けた者が退職又は死亡したときは未返済金を退職手当から控除する。</p>	貸付金額	返済期間	100万円まで	3年以内	200万円まで	6年以内	300万円まで	9年以内	400万円まで	12年以内	500万円まで	15年以内	<p>(目的)</p> <p>第1条 この規程は、東日本大震災により居住する家屋が全壊または半壊した専任の職員に対し、生活に必要な資金の貸付について定める。</p> <p>(貸付の資格)</p> <p>第2条 貸付を受けることのできる者は、返済の見込みが確実である専任の職員とする。</p> <p>(貸付額)</p> <p>第3条 貸付額は申請時における東北学院退職手当支給規程により算出された額の1.2倍以内とし、その限度額は500万円とする。ただし、貸付額は10万円単位とする。</p> <p>(利息)</p> <p>第4条 貸付は、無利子とする。</p> <p>(返済方法)</p> <p>第5条 貸付金の返済方法は次の各号による。</p> <p>(1) 返済は貸付を受けた月の13か月後からとする。</p> <p>(2) 貸付金の返済は貸付金額及び貸付期間に応じ毎月の給与から又は毎月の給与及び6月期・12月期期末手当からの併用のいずれかによる。ただし、6月期・12月期期末手当による返済の総額は貸付額の2分の1以内とし、<u>10万円</u>単位とする。</p> <p>(3) 返済期間は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>貸付金額</th><th>返済期間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100万円まで</td><td>3年以内</td></tr> <tr> <td>200万円まで</td><td>6年以内</td></tr> <tr> <td>300万円まで</td><td>9年以内</td></tr> <tr> <td>400万円まで</td><td>12年以内</td></tr> <tr> <td>500万円まで</td><td>15年以内</td></tr> </tbody> </table> <p>2 貸付金の返済が終了しないうちに貸付を受けた者が退職又は死亡したときは未返済金を退職手当から控除する。</p> <p>(申請手続)</p> <p>第6条 貸付を受けようとする者は所定の申請書(様式1)に必要な事項を記入のうえ、全壊又は半壊を証明できる市町村長による「罹災証明書」を添付し、庶務部庶務課(以下「庶務課」という。)に提出するものと</p>	貸付金額	返済期間	100万円まで	3年以内	200万円まで	6年以内	300万円まで	9年以内	400万円まで	12年以内	500万円まで	15年以内
貸付金額	返済期間																								
100万円まで	3年以内																								
200万円まで	6年以内																								
300万円まで	9年以内																								
400万円まで	12年以内																								
500万円まで	15年以内																								
貸付金額	返済期間																								
100万円まで	3年以内																								
200万円まで	6年以内																								
300万円まで	9年以内																								
400万円まで	12年以内																								
500万円まで	15年以内																								

新	旧
	<p>する。</p> <p>2 申請書の提出期限は、当分の間、毎月の末日とする。</p> <p>(借用証書)</p> <p>第7条 貸付を受ける者は借用証書及び委任状(様式2)を庶務課に提出し、貸付金を受領するものとする。</p> <p>(保証人)</p> <p>第8条 保証人は成人に達した3親等以内の血族・2親等以内の姻族又は5年以上在職の専任職員から1名とする。</p> <p>2 保証人が死亡又は退職したときは遅滞なく新たに保証人を定めて届出なければならない。</p> <p>(貸付の取消)</p> <p>第9条 貸付を受けた者が故意に申請書記載事項のとおり実施しない場合は貸付を取り消す。</p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第10条 この規程の改廃は、理事会が行う。</p> <p>附則 この規程は、平成23年4月13日から施行する。</p>

訂正理由

500万円を借りた場合

返済方法は通常、月々の給与+期末手当を併用しての支払いを想定していた。

しかし、現在の規程には、「6月期・12月期期末手当による返済の総額は貸付額の2分の1以内とし、10万円単位とする。」としたことから、

期末手当を最低の10万円とした場合×2回で年額200,000円 ←(a)

期末手当による返済の総額は貸付額の2分の1以内との制約があることから、

月々の返済額は $200,000 \div 12 \approx 17,000$ 円 $17,000 \text{ 円} \times 12 \text{ か月} = 204,000$ 円(年額) ←(b) となる。

従って (a)+(b)=404,000円 年額となり、 $404,000 \text{ 円} \times 13 \text{ 年} = 5,252,000$ 円となり、13年を待たずに完済することとなる。

返済期間の最長を15年と定めた意味が無い事となることから、「6月期・12月期期末手当による返済の総額は貸付額の2分の1以内とし、1万円単位とする。」との訂正をお願いしたい。

なお、現行の規定の場合

100万円を借りた場合は 2年6か月で

200万円を借りた場合は 4年11か月で

300万円を借りた場合は 7年5か月で

400万円を借りた場合は 9年10か月で完済することになる。



東北学院中高発第 518 号

平成 23 年 5 月 24 日

学校法人 東北学院

理事長 平河内 健 治 殿

東北学院中学校・高等学校

校 長 永 井 英 司



東北学院中学校・高等学校東日本大震災による被災生徒に対する
救済措置に関する規程について (上申)

標記の件について、東日本大震災及びその余震により被災を受けた生徒に
対して、本校は「東北学院中学校・高等学校東日本大震災被災生徒に対する
救済措置に関する規程」により経済的支援をいたしたく、理事会でご承認い
ただきたく上申いたします。

【添付書類】

1. 東北学院中学校・高等学校東日本大震災による被災生徒に対する救
済措置に関する規程
2. 東北学院中学校・高等学校東日本大震災生徒支援・復旧試算表

以 上



東北学院中学校東日本大震災被災生徒に対する救済措置に関する規程

第1条 東北学院中学校は、東日本大震災被災地（災害救助法適用地域に指定された地域）出身で、被災の大きい本校生徒（平成23年度入学生を含む）に対して臨時に次の救済措置をとる。

- (1) 主たる家計維持者が死亡または行方不明になった場合には、当該年度の授業料1年分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (2) 主たる家計維持者が所有する自宅家屋が全壊または流失した場合は、当該年度の授業料6ヶ月相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (3) 主たる家計維持者が所有する自宅家屋が半壊または津波により床上浸水した場合は、当該年度の授業料3ヶ月分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (4) 主たる家計維持者が、福島原子力発電所の事故に伴う避難指示または避難勧告等により、所有する自宅家屋を長期にわたって使用できない場合は、当該年度の授業料3ヶ月相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (5) 主たる家計維持者が失職した場合には、当該年度の授業料1年分相当額を緊急給付奨学金として給付する。

第2条 緊急給付奨学金の給付を希望するものは、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 東日本大震災緊急給付奨学金申請書（本校所定）
- (2) 戸籍抄本もしくは住民票除票の写し（第1条第1号に該当する場合）
- (3) 罹災証明書（第1条第2号、第3号、第4号に該当する場合）
- (4) 離職票等失職を証明するもの（第1条第5号に該当する場合）

第3条 緊急給付奨学金は採用決定後に給付する。

第4条 緊急給付奨学金の給付の承認を受けた生徒は、その事由が消滅したときは、速やかに学校長に届けなければならない。

第5条 学校長は、緊急給付奨学金の給付を承認した生徒が、次の各号の一に該当する場合には、その承認を取り消すことができる。

- (1) 転学または退学により本校の在籍を失った場合。
- (2) 第1条第5号に該当する事由が消滅した場合。

2 第5条第1項第1号および第2号に該当する場合は翌月分より月割での返還をしなければならない。

第6条 本規程は平成23年4月1日より施行し、平成26年3月31日に失効する。
ただし、第1条第5号に関しては平成23年度限りとする。

東北学院高等学校東日本大震災被災生徒に対する救済措置に関する規程

第1条 東北学院高等学校は、東日本大震災被災地（災害救助法適用地域に指定された地域）出身で、被災の大きい本校生徒（平成23年度入学生を含む）に対して臨時に次の救済措置をとる。

- (1) 主たる家計維持者が死亡または行方不明になった場合には、当該年度の授業料1年分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (2) 主たる家計維持者が所有する自宅家屋が全壊または流失した場合は、当該年度の授業料6ヶ月相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (3) 主たる家計維持者が所有する自宅家屋が半壊または津波により床上浸水した場合は、当該年度の授業料3ヶ月分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- (4) 主たる家計維持者が、福島原子力発電所の事故に伴う避難指示または避難勧告等により、所有する自宅家屋を長期にわたって使用できない場合は、当該年度の授業料3ヶ月相当額を緊急給付奨学金として給付する。

第2条 緊急給付奨学金の給付を希望するものは、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 東日本大震災緊急給付奨学金申請書（本校所定）
- (2) 戸籍抄本もしくは住民票除票の写し（第1条第1号に該当する場合）
- (3) 罹災証明書（第1条第2号、第3号、第4号に該当する場合）

第3条 緊急給付奨学金は採用決定後に給付する。

第4条 本規程は平成23年4月1日より施行し、平成24年3月31日に失効する。

東北学院中学校・高等学校 東日本大震災 学納金関係特例措置

入学手続関係（平成 23 年度限りの特例措置）

1. 入学時納入金の納入は 3 月 28 日（月）まで振込とする。東日本大震災の罹災者に関しては延納願を提出の上 4 月 28 日（木）まで延納を認める。（罹災者であって避難等で直接学校に提出できない特段の事情がある場合には電話での延納を認める。ただし後日書類の提出を求める）
2. 延納願を提出したものの 4 月 28 日（木）までに納入ができないとの相談を受けた場合には校長、副校長、事務長にその判断を委任する。
3. 中学校・高等学校入学予定者のうち東日本大震災の罹災者（本人・保護者の死亡、家屋全壊・半壊、津波による家屋の浸水等）で入学オリエンテーションから登校をせずに入学辞退届を提出した場合は、平成 23 年 3 月 31 日（木）を過ぎても入学金を含め納入額の全額を返金する。ただし、申し出の期限は平成 24 年 3 月 31 日までとする。
（罹災の認定は市町村役場等が発行した証明書にて判断する）
※1 中学校入学予定の■■■■は震災により本人死亡のため全額返金
※2 高等学校入学予定の■■■■は震災により本人死亡のため入学金一次納入分を除き入学時納入金は徴収せず（4 月 1 日時点では行方不明であったため入学時納入金を延納）
4. 中学校・高等学校入学予定者のうち東日本大震災の罹災者（上記 3.を除く罹災者で宮城・岩手・福島の各県沿岸部の罹災者）で入学オリエンテーションから登校をせずに入学辞退届を提出した場合は、平成 23 年 3 月 31 日を過ぎても入学金を除いた納入金を返還する。ただし、申し出の期限は平成 23 年 9 月 30 日（金）とする。
5. 中学校・高等学校入学予定者のうち東日本大震災の罹災者であっても、通常に日常生活を営めた者と思われる者からの入学辞退に対しては、通常の辞退と同様に平成 23 年 3 月 31 日（木）までの届がある場合にのみ入学金を除いた納入金を返還する。
6. 中学校・高等学校入学予定者のうち東日本大震災を理由として一度も登校せず、平成 23 年 4 月中に転学手続を行った場合は、入学辞退として上記 5.と同様に扱う。
7. それ以降の転出については通常の転出扱いとする。

東北学院中学校・高等学校 東日本大震災 学納金関係特例措置

学納金関係（平成 23 年度限りの特例措置）

1. 東日本大震災の罹災（主たる家計維持者である保護者死亡もしくは行方不明、家屋の全壊・半壊、保護者の失職等）を理由として、一度も登校をせずに平成 23 年度転校・退学をした場合、当該月の授業料等学校納付金を免除する。ただし、申し出の期間は平成 23 年 4 月 30 日までとし、証明書等の提出を求める。
2. 上記 1.以降に申し出た場合とその他の罹災者の対する取り扱いについては、東北学院中学校学則第 24 条及び東北学院高等学校学則第 27 条のとおりとする。

東北学院中学校・高等学校 東日本大震災 震災による転入の特例措置

入学金・学納金関係（平成 23 年度限りの特例措置）

1. 東日本大震災の罹災（主たる家計維持者である保護者の死亡・行方不明、家屋の全壊・半壊、原子力発電所の事故による避難等）を理由として、転入を希望する場合には、転入学試験の受験料を免除する。
2. 転入学試験を受験合格した場合の入学時納入金は通常の転入と扱いを同じにする。ただし、申し出により平成 24 年 3 月 31 日までの延納を認める。
3. 延納願を提出したものの平成 24 年 3 月 31 日までに納入ができないと相談を受けた場合には校長、副校長、事務長にその判断を委任する。
4. 授業料等学校納付金の納入については、他の生徒と扱いを同一とし、転入月より東日本大震災被災生徒に対する救済措置に関する規程を申請できるものとする。

東北学院中学校・高等学校東日本大震災生徒支援・復旧試算表

【中学校：生徒支援】

平成23年5月24日作成

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	死亡・行方不明	30,000	12	360,000	2	720,000
2	全壊・流失	30,000	6	180,000	7	1,260,000
3	半壊・床上浸水	30,000	3	90,000	17	1,530,000
4	福島原発	30,000	3	90,000	0	0
	計					3,510,000 ①

【高等学校：生徒支援】

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	死亡・行方不明	33,000	12	396,000	2	792,000
2	全壊・流失	33,000	6	198,000	27	5,346,000
3	半壊・床上浸水	33,000	3	99,000	28	2,772,000
4	福島原発	33,000	3	99,000	1	99,000
	計					9,009,000 ②

【中学校：見舞金・香典・生花代】

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	全壊・流失	50,000			7	350,000
2	半壊・床上浸水	30,000			17	510,000
3	福島原発	30,000			0	0
4	保護者死亡	30,000			2	60,000
	計					920,000 ③

【高等学校：見舞金・香典・生花代】

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	全壊・流失	50,000			27	1,350,000
2	半壊・床上浸水	30,000			28	840,000
3	福島原発	30,000			1	30,000
4	保護者死亡	30,000			1	30,000
	計					2,250,000 ④

【修理費用】

	修理箇所	業者名	単価	数量	計
1	礼拝堂・鐘楼修理		7,455,000	1	7,455,000
2	校舎等修理			1	0
3	空調設備修理		1,400,000	1	1,400,000
4	電気設備修理		171,000	1	171,000
5	運動場修理			1	0
6	建物周り地盤沈下			1	0
7	外構			1	0
8	天体観測ドーム補修			1	0
9	図書室移動式書架				
	計				9,026,000 ⑤

※ 生徒支援については、3月段階での被災人数をもとに試算、修理費に関しては現段階で見積額が提出されている分の金額だけを記載

※ 6月1日現在で最終調査を行い、支援策および国・県への報告書作成用に利用

①+②+③+④+⑤=	24,715,000 ⑥
------------	--------------

修繕箇所の補助対象

【補助金1/2】

	修理箇所	業者名	修理金額	補助率	計
1				50%	0
2				50%	0
3				50%	0
	計				0 ⑦

【補助金1/3】

1				33.3%	0
2				33.3%	0
3				33.3%	0
	計				0 ⑧

※補助率1/2の場合、東北学院中学校・高等学校負担額 (⑥－⑤)

24,715,000

※補助率1/3の場合、東北学院中学校・高等学校負担額 (⑧－⑥)

24,715,000



東北学院榴高発第 241 号

平成 23 年 5 月 18 日

学校法人 東北学院

理事長 平河内 健 治 殿

東北学院榴ヶ岡高等学校
校長 久 能 隆



東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災生徒に対する
救済措置に関する規程について（上申）

標記の件について、東日本大震災及びその余震により被災を受けた生徒に対して、
本校は「東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災生徒に対する救済措置に関する規程」
により経済的支援をいたしたく、理事会でご承認いただきたく上申いたします。

【添付書類】

1. 東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災生徒に対する救済措置
に関する規程
2. 東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災生徒支援・復旧試算表

以 上



東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災被災生徒に対する救済措置に関する規程（案）

第1条 東北学院榴ヶ岡高等学校は、東日本大震災被災地（災害救助法適用地域に指定

された地域）出身で、被災の大きい本校生徒（平成23年度入学生を含む）に対して臨時に次の救済措置をとる。

- （1）主たる家計維持者が死亡または行方不明になった場合には、当該年度の授業料1年分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- （2）主たる家計維持者が所有する自宅家屋が全壊または流失した場合は、当該年度の授業料半年分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- （3）主たる家計維持者が所有する自宅家屋が半壊または津波により床上浸水した場合は、当該年度の授業料3ヶ月分相当額を緊急給付奨学金として給付する。
- （4）主たる家計維持者が、福島原子力発電所の事故に伴う避難指示または避難勧告等により、所有する自宅家屋を長期にわたって使用できない場合は、当該年度の授業料3ヶ月分相当額を緊急給付奨学金として給付する。

第2条 緊急給付奨学金の給付を希望するものは、次の書類を提出しなければならない。

- （1）東日本大震災被災緊急給付奨学金申請書（本校所定）
- （2）戸籍抄本もしくは住民票除票の写し（第1条第1号に該当する場合）
- （3）罹災証明書（第1条第2号、第3号、第4号に該当する場合）

第3条 緊急給付奨学金は奨学生の採用決定後に給付する。

第4条 本規程は平成23年4月1日より施行し、平成24年3月31日に失効する。

東北学院榴ヶ岡高等学校東日本大震災生徒支援・復旧試算表

【生徒支援】

平成23年5月16日作成

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	死亡・行方不明	33,000	12	396,000	0	0
2	全壊・流失	33,000	6	198,000	13	2,574,000
3	半壊・床上浸水	33,000	3	99,000	8	792,000
4	福島原発	33,000	3	99,000	1	99,000
	計					3,465,000 ①

【見舞金】

	摘要	単価	月数	金額	人数	計
1	全壊・流失	50,000			13	650,000
2	半壊・床上浸水	30,000			8	240,000
3	福島原発	30,000			1	30,000
	計					920,000 ②

【修理費用】

	修理箇所	業者名	単価	数量	計
1	天体観測ドーム		3,102,252	1	3,102,252
2	天体望遠鏡		13,697,748	1	13,697,748
3	校舎教室等修理		9,340,800	1	9,340,800
4	家庭科実習棟 冷 温 水 器 修 理		2,310,000	1	2,310,000
5	南校舎ボイラー設備機器 震災復旧点検試運転工事		178,500	1	178,500
6	北校舎蒸気配管 漏 洩 修 繕 工 事		78,750	1	78,750
	計				28,708,050 ③

①+②+③=	33,093,050 ④
--------	--------------

【補助金1/2】

	修理箇所	業者名	修理金額	補助率	計
1	天体観測ドーム		3,102,252	50%	1,551,126
2	天体望遠鏡		13,697,748	50%	6,848,874
3	教室等修理		9,340,000	50%	4,670,000
	計				13,070,000 ⑤

【補助金1/3】

	修理箇所	業者名	修理金額	補助率	計
1	天体観測ドーム		3,102,252	33.3%	1,033,050
2	天体望遠鏡		13,697,748	33.3%	4,561,350
3	教室等修理		9,340,000	33.3%	3,110,220
	計				8,704,620 ⑥

※補助率1/2の場合、東北学院榴ヶ岡高等学校負担額 (④-⑤)

20,023,050

※補助率1/3の場合、東北学院榴ヶ岡高等学校負担額 (④-⑥)

24,388,430

2011年5月19日(月)に、在セルビア日本大使館より、「よい子の妖精」という絵本9冊とセルビアの子ども達の描いた絵7枚、そして千羽の折り鶴が届きました。

「よい子の妖精」という絵本は、子どもについて書かれた詩が26編載せられています。イラストは全てスベトザール・マルコビッチ小学校の生徒さん達が描いたものです。この絵本は年長組3クラスで合同礼拝した際にきれいな絵を見ながら、セルビアの皆さんの温かい支援に感謝の祈りを捧げました。

7枚の絵は、パブレ・サビッチ小学校の生徒さん達によるものです。千羽の折り鶴は、ナーシェ・デーテ幼稚園の園児さん達によって折られたものです。遠いセルビアの祈りが園児の心にも届くように、幼稚園の窓辺につり下げさせていただきました。

園児たちにとって、このような支援をうけていることを実際に目にし、感じることは、この震災を通して与えられた国際理解の大切な機会となりました。

今回のセルビアからの尊い贈り物は、1995年に東北学院高校を卒業されたTG会OBで、セルビア在住で、セルビア大学の庄司 学氏が窓口となって実現したものです。庄司 学氏が、セルビアの子どもたちの善意を日本の子どもたちへ送り届けたいと願い、仙台市市民局文化スポーツ部長 武田 均氏にご相談なされたとのことでした。武田 均氏も東北学院大学法学部出身で共にTG会OBという関係から、是非とも出身校の東北学院幼稚園の子ども達へということで実現いたしました。

(仮訳) 日本の友達へ

私たちは、日本のこと、日本の文化・伝統、そしてメンタリティーについて勉強してきました。そして、あなた方の偉大さ、辛抱強さ、そして敗戦から復興し、先進国の仲間入りした歴史に驚き、感動しました。

私たちセルビア人は、あなた方の勇気、規則正しさ、団結心及び冷静さに敬意を表するとともに、同時に、あなた方日本人が、私たちセルビア人が苦しかったときにセルビアを助けてくれたことを忘れておりません。

今、あなた方が直面している理不尽な困難に対し、私たちは可能な限り、あなた方を助けたいと希望します。

ミリエボ市パブレ・サビッチ小学校の生徒より

YAHOO! 地図
JAPAN

セルビア共和国周辺の地図



最寄り駅:

印刷用コメントを入力できます。

このエリアはバーコードに対応していません。

東北学院大学放射線モニタリング

月日	測定情報	多賀城キャンパス	土樋キャンパス	泉キャンパス	小鶴キャンパス	学院幼稚園	備考 東北大学
4/26	測定場所	3号館東側入口	施設課前				青葉山地区
	測定時刻	10:00	14:20				11:00
	火 測定値	0.08	0.08				0.08
4/27	測定場所	同上		事務棟前駐車場			同上
	測定時刻	10:00		14:40			11:00
	水 測定値	0.07		0.07			0.09
4/28	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					11:00
	木 測定値	0.08					0.09
4/29	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					12:00
	金 測定値	0.08					0.09
4/30	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					12:00
	土 測定値	0.07					0.09
5/6	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					10:00
	金 測定値	0.07					0.09
5/7	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					12:00
	土 測定値	0.08					0.09
5/9	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:20					10:00
	月 測定値	0.08					0.08
5/10	測定場所	同上	施設課前				同上
	測定時刻	10:00	14:10				10:00
	火 測定値	0.07	0.08				0.08
5/11	測定場所	同上		事務棟前駐車場	正門前		同上
	測定時刻	11:20		14:40	15:00		10:00
	水 測定値	0.07		0.07	0.09		0.09
5/12	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					10:00
	木 測定値	0.07					0.09
5/13	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					10:00
	金 測定値	0.08					0.08

※ 平常値(BG) 約0.04マイクロシーベルト/時間

使用機器; Aloka γ SURVEY METER(TCS-161)

東北学院大学放射線モニタリング

月日	測定情報	多賀城キャンパス	土樋キャンパス	泉キャンパス	小鶴キャンパス	学院幼稚園	備考 東北大学
5/14 土	測定場所	3号館東側入口					青葉山地区
	測定時刻						12:00
	測定値						0.09
5/16 月	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					10:00
	測定値	0.07					0.08
5/17 火	測定場所	同上	施設課前				同上
	測定時刻	10:00	14:10				10:00
	測定値	0.07	0.07				0.09
5/18 水	測定場所	同上		事務棟前駐車場	グラウンド(陸上)	園内遊び場	同上
	測定時刻	10:00		14:40	15:10	11:30	10:00
	測定値	0.08		0.07	0.08	0.06	0.08
5/19 木	測定場所	同上				同上	同上
	測定時刻	10:00				10:30	10:00
	測定値	0.08				0.06	0.08
5/20 金	測定場所	同上				同上	同上
	測定時刻	10:00				10:10	10:00
	測定値	0.07				0.06	0.08
5/21 土	測定場所	同上					同上
	測定時刻	10:00					12:00
	測定値	0.08					0.08
5/23 月	測定場所	同上				同上	同上
	測定時刻	10:20				10:30	10:00
	測定値	0.07				0.06(草0.1)	0.08
5/24 火	測定場所	同上	施設課前			同上	
	測定時刻	10:20				10:15	
	測定値	0.07				0.06(草0.09)	
5/25 水	測定場所	同上		事務棟前駐車場	グラウンド(陸上)		
	測定時刻						
	測定値						
5/26 木	測定場所	同上					
	測定時刻						
	測定値						
5/27 金	測定場所	同上					
	測定時刻						
	測定値						

※ 平常値(BG) 約0.04マイクロシーベルト/時間

使用機器; Aloka γ SURVEY METER(TCS-161)